

令和 7 年度 ダム管理測量業務委託 特記仕様書

1、総則

(1) 適用

この特記仕様書は、令和 7 年度 ダム管理測量業務委託に適用する。

2、神路ダム堤体変位測量

(1) 目的

神路ダムの管理の一環として、神路ダムに設置されている基標の水平変位測量及び水準測量を定期的に行い、堤体の変形等の異常の有無を観測する。

(2) 水準測量

ア、作業内容

神路ダム及びその周辺に設置されている基標 19 箇所（0.6 km相当）について、水準測量する。

イ、精度管理

2 級水準測量に準じる。

(3) 堤体変位測量

ア、作業内容

ダム軸方向 3 測線、ダム軸直角方向 3 測線（計 0.6 km相当）について、水平変位を測量する。

イ、作業方法

各測線の両端の基標を固定点として、その固定点の一方に機器を設置し、もう一方の固定点を視準して、その視準線に対し、堤体上の各測点（基標）の変位量を測定する。これを（正）、（反）につき各 1 回ずつ観測する。

変位量は、ダム軸方向測線に対して、上流側への変位を＋、下流側への変位を－、ダム軸直角方向測線に対して、右岸側への変位を R、左岸側への変位を L とする。

ウ、精度管理

国土交通省公共測量作業規程（「作業規程の準則」を準用）による。（基準点測量）

(4) 観測の時期及び回数

観測は、四半期毎に 1 回行い、年間 4 回観測する。

1 回の観測において、水準基標測量(19 箇所)、堤体変位測量(ダム軸方向 3 測線、ダム軸直角方向 3 測線)を観測する。

(5) 報告書のとりまとめ（完成時）

観測記録は、測定成果表にとりまとめる。

測定成果表（別紙様式参照）には、基標設置時の測定データ（別紙参照）、今回の測定データ（測定日、天候、気温、ダム貯水位、測定結果及び基標設置時測定値との変位）を記載する。

報告書は、測定成果表、精度管理表、その他必要資料をとりまとめ、完成時に電子記憶媒体で提出する。

(6) 令和7年 観測成果表 (中間報告)

完成時の報告書とは別に、12月期の第3回観測後に、「令和7年観測成果表」を12月末までにとりまとめて、製本(2部)及び電子記憶媒体(2部)で提出する。

「令和7年観測成果表」は、測量済みの令和6年度3月期のデータを貸与したものと、今回測定した令和7年度6月期、9月期、12月期の4回の観測結果をとりまとめる。

3、神路ダム及び恵利原ダム堆砂測量

(1) 目的

神路ダムの管理の一環として、中心杭の位置(9本)について深浅測量を行い、ダム湖内の堆積量を推定する。

恵利原ダムの管理の一環として、中心杭の位置(8本)について横断測量を行い、ダム湖内の堆積量を推定する。

(2) 観測の時期

堆砂測量の実施は、12月初旬頃とする。

(3) 報告書のとりまとめ

結果報告書の提出は、12月末までとする。

報告書は以下の成果品をとりまとめ、堤体変位測量の成果と併せて、製本(2部)及び電子記憶媒体(2部)で提出する。

ア、神路ダム 観測手簿・深浅測量記録紙・横断図・経年横断図・堆砂量計算書
作業写真・その他必要な資料

イ、恵利原ダム 観測手簿・精度管理表(横断点検測量図含む)・横断図
経年横断図・堆砂量計算書・作業写真・その他必要な資料

※ただし、観測手簿等は正・副で製本する2部のうち、正1部にのみ綴じこむこと。

経年横断図及び堆砂量計算等に必要な資料は、発注者から貸与する。

神路ダムにおける堆砂測量については、仮堆砂計測線(現実に堆砂が発生すると思われる底面付近の高さ)の数値を定数とする。(H16年度から)

4、その他

(1) その他留意事項

作業実施にあたっては、事前に必ず監督職員と工程等について打合せすること。

ダムは、水道用水の水源地であり、衛生的見地により十分注意を払うこと。

作業中は、安全確保に十分留意し、特に神路ダム等への転落事故防止に努めること。

作業中は、樹木・芝等に損傷を与えないよう留意すること。万一損傷を与えた場合は、受注者の負担において、これを補修すること。

業務上、不明な点が生じた場合は、速やかに監督職員に報告し、協議すること。